

転倒災害を防ぐために

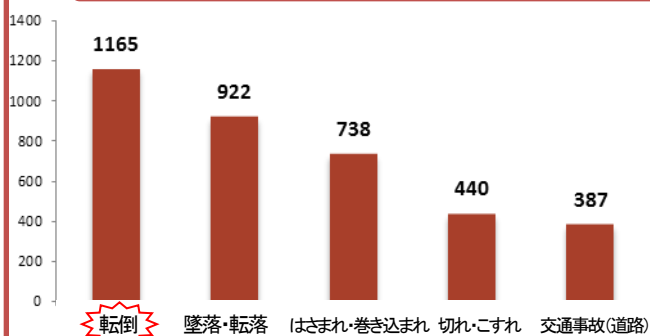
転ばぬ
先の杖

労働災害の中で最も多く発生する災害が転倒災害です。「滑った・転んだ」災害ですが、手首や骨盤などを骨折して1月以上休業する場合も少なくありません。中高年に発生率が高く、休業期間も長くなる傾向があります。

転倒災害は5つの類型（裏面参照）に分類されます。類型に応じた災害防止に努めましょう。



転倒災害は最も多く発生する労働災害です

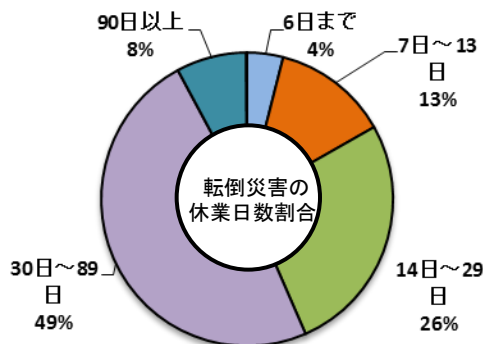


転倒災害は、最も多く発生している労働災害です。製造業や運輸交通業のほか、商業・社会福祉施設などの第三次産業でも多発しています。他の災害が減少する中で、転倒災害は増加しています。働きやすい職場を作るためには転倒災害の防止対策が求められます。

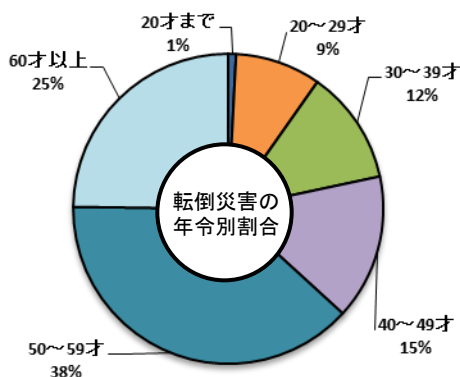
転倒災害による被災者の3人に2人が1月以上休業しています

転倒による負傷は、足首や手首、肩、肘、骨盤などの骨折が多く、転倒災害の被災者の4人に3人が骨折災害です。

骨折を伴う災害は休業期間が長期化するため、転倒災害の被災者の3人に2人が1月以上の休業となっています。「滑った・転んだ」災害ですが、その被害は小さくありません。



転倒災害による被災者の3人に2人が50歳以上です



被災者の3人に2人が50歳以上の中高年労働者です。中高年労働者に被災者が集中していることが転倒災害の特徴です。

加齢による身体機能の低下に伴い、転倒災害に被災する率が高くなっています。

転倒災害を防止するためには、身体機能の低下があっても転倒しにくい労働環境の整備が必要です。転倒災害の類型（裏面参照）に応じた対策を講じましょう。

(注) 災害統計は、H16年からH25年に鳥取県内で発生した休業4日以上を分析したものです。

転倒災害の5つの類型

① 通路の障害物



通路の物につまずく

② 床面の滑り



濡れた床で足が滑る

③ 通路の段差



通路とカウンター前の段差で踏み外す

④ 路面の凍結



凍結していた路面に足をとられる

⑤ 階段



階段を踏み外す

転倒災害防止対策

- 整理整頓を行い、通路に物を置かないようにする
- 床面の凸凹をなくす
- 床面の水や油はよく拭き取る
- 滑り止めに、マットを敷いたり滑り止めテープを貼る
- 段差はできるだけスロープにし、色別表示で注意喚起する
- 滑りにくい靴底の靴を履く
- 通路は照度75ルクス以上にし、明るくする



対策事例



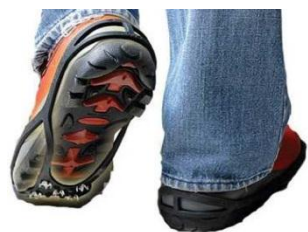
整理整頓と通路の確保



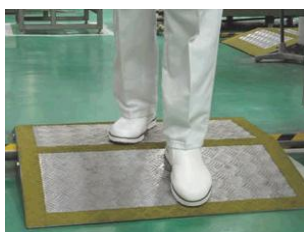
屋外通路の滑り止めシール



階段の滑り止めシールと注意喚起



携帯用かんじきの使用



凸部分のスロープ



内扉の段差に注意喚起